

りんご生育情報(8月号)

令和8年8月26日発行

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

HP <https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/et-tmsgsin-n/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右の二次元コードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



1. 果実肥大状況

8月10日現在の「ふじ」の果実肥大状況は、タテ径70.7mm（平年比118%）、ヨコ径79.3mm（平年比119%）と平年より大きく推移しています。

表1 果実肥大調査結果（mm）

	タテ径	ヨコ径
本年	70.7	79.3
平年値	60.0	66.9
平年比	118%	119%

※東和町の測定値。

2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所が7月23日に発行した発生予報第4号では、褐斑病と斑点落葉病の発生量が「やや多い」と予報されています。また、果樹カメムシ類、ハダニ類の発生量は「平年並み」となっています。

曇雨天が続く場合でも晴れ間を縫って防除を実施するなど、適期防除に努めましょう。

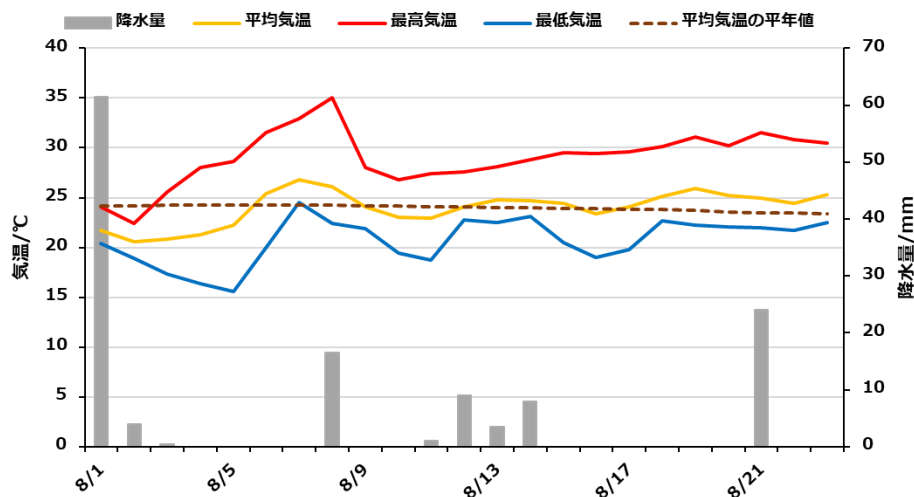
表2 宮城県病害虫防除所発生予報第4号(令和8年7月23日発行)

病害虫名	発生量
褐斑病	やや多
斑点落葉病	やや多
果樹カメムシ類	平年並
ハダニ類	平年並

3. 気象の推移

8月1日から8月23日までの気温、降水量の推移は図1のとおりです。気温は、上旬前半に平年を下回る日が続いたものの、6日以降は平年を上回る日が多くなりました。

図1 8月1日から8月23日の気温・降水量の推移（アメダス地点：米山）



大雨による北上川の増水で、一部園地が冠水しました。今後の対応として、腐敗果の摘果と病気などの蔓延防止のための防除を徹底してください。



4. これから発生しやすい気象災害への対策について

🍏 高温に対する技術対策 🍏

- 草生園（下草を生やし管理する園地）では、草の刈り取り回数を増やし（草丈 15～20cm を目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎます。また、刈り取った草は樹冠下へ敷草しましょう。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や亜主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残して直射日光が当たらないようにするとともに、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止措置を講じましょう。また、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果量としましょう。
- ハダニ類が多発しやすいため、園地の観察を強化し、防除を徹底しましょう。
- 土壌条件によって異なりますが、干天日数を目安とすると、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20t/10a）程度を目安にかん水するようにしましょう。
- 台木が M.26 や M.9（マルバカイドウを補助根としていない）で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合がありますので、かん水設備がない場合でもスピードスプレー等で水を運搬してかん水しましょう。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、反射シートの活用や適切な栽培管理による樹幹内環境の改善をはかりましょう。ただし、反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長する場合がありますので注意してください。

5. 今後の管理について～「つがる」等早生品種の着色管理～

「つがる」など9月に収穫する品種の葉摘みの開始時期は、収穫予定の 10～15 日前です。葉摘みは収穫までに2回に分けて実施し、1回目は果実に直接ついた葉を中心に軽く2～3枚程度除去し、2回目は玉回しと併せて果そう葉の 30～40%を上限として除去します。

早生品種の着色管理は残暑の時期に当たります。最低気温が 20℃を超えるような日が続く場合は、必要以上に葉摘みを強くしても着色は進みません。翌年の花芽の充実に影響を及ぼすこともあるので、過度な葉摘みはしないように注意してください。

◆ハダニ類対策について

梅雨明け後は、気温が高いため短期間で高密度になりやすいです。防除のタイミングを誤ると一気に樹上密度があがり、園地全体に蔓延してしまうので、園地を良く観察しながらハダニ類が 1 葉当たり 3 頭以上 寄生している場合には防除を実施するようにしましょう。

薬剤抵抗性の発達防止のため、IRAC コードが同じ薬剤の連用を避け、計画的に ローテーション散布 を行いましょう。



リンゴハダニの成虫

